

11.【水域：増殖場】 水域を活用した藻場の回復・水産生物の生育空間創出：有喜漁港（長崎県諫早市）

概要

- 有喜漁港では、漁港の拡大にあたり喪失した藻場や漁場の回復を望む声が高まってきた。
- 「自然調和型防波堤」を整備し、藻場の回復及び水産生物の生育空間を創出を図る。
- 多年生の藻場構成種による安定した藻場の形成が進み、水産生物の生息場としても利用されるようになり、水産資源の保護・育成等への効果が見られた。

背景

- ・有喜漁港では、漁港としての機能を追求し、近隣に藻場や漁場が存在する場合でも拡大整備を実施してきた。
- ・漁港施設の充実とともに、整備以前の藻場や漁場の回復を望む声が高まってきた。

有効活用の内容

- ・港内の静穏度を確保する沖防波堤に藻場形成機能を付加させた「自然調和型防波堤」を整備し、藻場の回復及び水産生物の生育空間を創出を図る。
- ・防波堤の断面決定にあたっては、大型海藻や水産生物の生息環境の観点と土木的観点の両面から検討し、階段型の断面を採用。
- ・防波堤完成後は、藻場形成の効果を高めるために地元漁業者が母藻の投入を実施。また、藻場形成の状況を把握するためにモニタリング調査を実施。

活用した漁港施設	水域
実施時期	平成6年度～平成10年度、平成13年度～平成16年度
活用した事業	水産基盤整備事業（自然調和型漁港づくり推進事業）
実施した手続き	特になし

有喜漁港

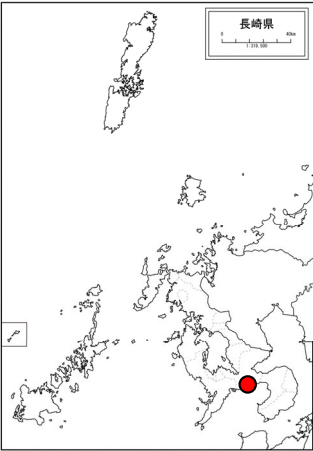


効果

- ・平成17年のモニタリング調査の結果、多年生のノコギリモクやヨレモクモドキ、単年性のワカメやアカモク等の生育が確認できた。
- ・藻場には多くの魚の生息が確認され、種苗放流によるアワビやナマコ等の成長も見られる。
- ・平成27年の調査では、海藻はワカメ、ノコギリモクが被度25～50%でモザイク状に分布し、アカモクは2m以下で密生していた。



藻場マウンド部の代表的な状況



- <参考文献>
- ・有喜漁港における自然調和型防波堤の効果について（諫早土木事務所 河港課）
 - ・平成27年度 漁港・漁場の施設の設計手法の高度化検討調査事業報告書（国立研究開発法人水産総合研究センター、一般社団法人水産土木建設技術センター、一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所、国際気象海洋株式会社、復建調査設計株式会社、株式会社アルファ水工コンサルタンツ）